

黒部を未来へつなく



< ご挨拶 >

皆さんこんにちは。毎日暑い日が続いておりますが、お変わりなくお過ごしでしょうか。

私、成川まさゆきは、本年10月31日で議員10年となります。これも地域の皆さんに支えられ活動が出来たこそだと思っています。自分なりに黒部市の発展と市民の幸せを第1に考えて、どうやったら今の課題を拾い上げて、解決に結びつけることが出来るのか、黒部の未来を担う次世代に繋げることが出来るのか、そう思い続けて10年間走り続けてきました。

しかし、10年間の議員活動で思い通りにまちは変わったのかと言われれば、そうじゃない現実があります。今までの10年を振り返りながら新たな挑戦で、これからの10年間を突っ走っていきたいと思います。

黒部を未来につなく 成川まさゆき



まさゆき KENBUNROKU MANABINOJIKAN 見聞録「学びの時間」



3月27日 参議院会館
総務省レクチャー



5月16日 東京都狛江市
防災 3D マップ



5月5日
谷浜鉄見デッキ



6月27日
自治体・公共Week2024

地方議員 養成講座 スタッフ募集

「まちのために何かしたいと考えている方、議員になってみませんか。」

今、地方議員の養成講座立ち上げ（今秋）を検討しており、その準備のためにボランティアスタッフを募集しております。一緒に立ち上げていただける方、気になる方がおられましたら、成川までメッセージください。詳細をお伝えします。この養成講座参加者の条件としては、政治信条や思想は関係なく、志があって自分の為にではなく、まちを良くしたいと考えている方としたいと考えておりますので、その条件を了承して携わっていただける方に限ります。

ありがとうございました。2024.6.23

成川まさゆき 感謝の集い 特別講演会



2024.06.23 ハレス尾寿に於いて
「成川まさゆき感謝の集い」を開催いたしました。

特別講演会として
「造澤栄一に学ぶ志と確信〜都心と地方を繋いで国を強くする」

【プロフィール】

造澤 久栄 (Hisae Shibusawa)

- ・大阪サニタリー株式会社 経営戦略室所属
- ・社外取締役：(株)JFLA ホールディングス
- ・顧問：センコーグループホールディングス(株)、アサヒフード株式会社、オロール株式会社
- ・元農林水産省職員（国農担当）
- ・米国のUCLAへの留学経験を活かし、米国政府系の医療センターに勤務
- ・退任後、一般社団法人日本GAP協会を経て現職。
- ・日本、並びに国際食品安全に尽力。
- ・遠縁には、「近代日本資本主義の父」と言われた造澤栄一がいる。

なりかわ 黒部を未来へつなく
成川まさゆき

黒部市議会議員
facebook で活動公開中!



議会報告

3月定例会 自民志創会の代表質問を行いました。

1. 本市の経済動向について
2. 防災対策について
3. 観光振興について
4. 自然と共生し、安全で安心して暮らせるまちづくり
5. 地域の活力を生み出す産業育成のまちづくり
6. 都市基盤の充実した住みやすいまちづくり
7. 健やかで、笑顔あふれる、めくもりのあるまちづくり
8. 市民と行政がともに支えるまちづくり

能登半島地震の教訓から「子どもたちの防災知識の向上について」

能登半島地震の際には、多くの方が避難した小中学校。そこに通う子どもたちが避難所開設運営の力にならないのかと考え、子どもたちに防災に関心を持ってもらうように出前講座の開催を提案しました。

「災害時のトイレ確保について」

地震などの災害の際に重要なのはライフラインの確保です。ガスはガスコンロ、水道は給水車やペットボトル、電気は自家発電機、食料も非常食で賄えます。しかし、トイレは、代替えが無いと言われ、避難所が開設されると多くの方の利用が出来るようにしないといけない等、一番重要視されるべきものであると訴えました。

それに対し先ずは、避難場所運営で使用する防災備品を事前に見たり使ったりする機会を提供し、災害時にどう行動すればよいかの情報提供を検討すること。トイレはマンホールトイレを5セットと1セットで100回分の使用が可能な簡易トイレ79セット分を備えており、一定期間の被



災地職員派遣時に簡易トイレを持参するなど、移動にも対応が可能なことから、災害時における備えとして、必要に応じた数量確保に努めるとの答弁でした。

能登半島地震で経験から学んだ事を次に生かす取り組みをする必要を感じます。

今後、健康増進課、福祉課との連携の強化に加え、社会福祉協議会にもより多くの協力を頂きながら、相談しやすい体制づくり、相談を受けた後に、必要により専門機関につなぐ体制づくりに向けて、取り組んでいくとの答弁でした。

買い物ついでに健康診断、街中に用事を作る、そうになったらどうなるんだろうと思いました。

「都市公園を楽しい場所に」

本市で昨年11月にパークPFIの導入に向けたアンケートを実施しているが、その結果と導入の考えはあるのか。子供達が屋外で元気に遊べる冒険遊び場（プレーパーク）の設置の提案をいたしました。

それに対し、結果は、「子どもを遊ばせる」「レストランやカフェ等の飲食店、売店」「ゆっくりと本を読んだり、カフェを楽しんだりできること」があったら良いと思う事で、民間活力導入の可能性等を探るため、今後、民間事業者から広く意見、提案を求めるサウンディング調査を実施するとの事。

また、『冒険遊び場（プレーパーク）』の設置については、本市には、整備した専用施設は無いが、同様の活動は、市内においても様々な団体によって実施されているものと認識しているとの答弁でした。

市内には都市公園が沢山ありますが、上手く活用されているのが疑問です。プレーパークなども含めて色々な取り組みで行きたくなる公園になって欲しいなと思います。



「まちなか保健室について」

まちなかに歩く人が増えれば、賑わいが出来ると同時に、その方々が気軽に立ち寄れる場所、病気になる前に健康について気軽に相談できる場所として、まちなか保健室を整備出来ないのか



皆様のご意見をお気軽に是非、お寄せください

後援会
連絡先

成川正幸（なりかわ まさゆき） TEL (0765)57-1189
黒部市植木 107-7 FAX(0765)57-1189
携帯 090-1317-7155 Mail: masa.narikawa@gmail.com

ホームページ



6月定例会 個人質問を行いました。

1. 観光振興について

2. 地球温暖化防止の取り組みについて

3. 人口減少対策について

今こそ観光振興を進めるべき

①プランは観光局、実行は事業者。調査研究で長期計画などを策定していくのは行政だと考える。誘客のためにも観光データを今後に生かして欲しいと提案しました。

本市が独自で行ってきた宿泊施設でのアンケートと県のト



イトスの結果が、概ね同結果が出ていることが確認されたことから、宇奈月温泉宿泊施設でのアンケート調査を廃止し、トイトスの分析データの活用とリーサスや観光予報プラットフォームなどのオープンデータ活用で着地型旅行商品の開発や効果的な観光プロモーションに繋げていきたい。

②フィルムコミッション等のロケ対応が出来る体制整備を訴えました。

現時点で、市独自で立ち上げる考えはないが、今後も観光客誘致に繋がる取組の一つとして、県ロケーション オフィスと連携していきたい。



神奈川県綾瀬市 ロケ誘致

の質問に対して、

黒部宇奈月キャニオンルートが開通出来ず、観光振興が足踏みしている感がありますが、今こそ、次の手を打っていく必要を感じています。動けば変わります！

生活圏域の入善町と朝日町の2町が「消滅可能性自治体」に入った。

本市においても今後が厳しいと思わざるを得ない状況ではないか。

2021年7～8月に実施した市民アンケートで、本市に愛着を感じている割合も住み続けたい割合も減少していることから、

①アンケート結果（本市への愛着と住み続けたいなど）をどうとらえているのか。

②保育所、放課後児童クラブに移住者枠を設けるなどで、

いつの時期にでも黒部市に来てくださいという姿勢を示す事は出来ないのか、以上について質問しました。

本市の地球温暖化防止の取組は進んでいるのか？

令和6年2月21日、黒部市ゼロカーボンシティ宣言がされました。本市が国際都市を目指すなら必要な施策だと考え、

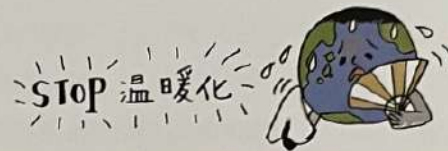
①実行計画（区域施策編）策定作業においての市民や事業者などの巻き込み方は。

②グリーンインフラの推進を図ってはどうか。

③「SDGs 未来都市」に本市も目指しては。

以上について質問しましたが、

本市が国際都市を目指すのであれば、地球温暖化防止対策は重要な施策になると思っています。



福島県須賀川市 地球温暖化防止

「仕事をしながら子育てができる仕組みづくり」を推進し、移住しやすいまちをめざすことが、転入者を増やすことに繋がっていくのではないかと。

③寛容なまち黒部の施策を充実させ、シティプロモーション推進の計画や方針の策定の考えはないか質問しました。

地域の凝集性が高く、寛容性が低い地域ほど、人口が減少する。特に女性に強く影響するそうで、保守的、過度な強制・団結は住みづらく、黒部市の人口を維持していく上で重要になってくると考えます。



寛容なまちとは、例えば、性別や年齢、障がいの有無などが気にならない、考えの違う人を排除しない、外からの人も受け入れる、新しいことへのチャレンジを応援するなど、誰でも安心して自分らしく生きられる地域の事を指すのかなと思います。



2025年08月号

かわら版 Vol.22

黒部を未来へつなく

なりかわ

成川まさゆき
市政報告

〒938-0014 黒部市榑木 107-7
TEL&FAX (0765) 57-1189
携帯 090-1317-7155
Mail/masa.narikawa@gmail.com

黒部宇奈月温泉駅

<ご挨拶>

みなさん、こんにちは。昨年12月に黒部市議会議長を拝命してから、早くも半年が経ちました。この間、議長としての日々の職務に全力で取り組んでまいりました。議長の立場上、議会で一般質問を行うことはできませんが、政策実現に向けた活動はこれまでと変わらず続けております。議長に就任してから、黒部市教育長、富山県厚生部長、KUROBE アクアフェアリーズ富山の監督、そして8月には地鉄の問題について、議員研修の場を設けて、議会としての知識向上を目指し、議員としても議長としての職務の合間を縫って、市内外を奔走し、課題解決に向け取り組んでいます。今回は、この「市政報告かわら版」を通じて、私の活動の一端をご報告させていただきます。



「黒部を未来へつなく」
黒部市議会議員 成川まさゆき

市政報告レポート①人口減少時代の地域活性化を考える

人口減少時代の地域活性化を考える地域連携の現状と課題

人口減少が加速する現代において、これまで各自治体が個別に取り組んできた地域活性化策は、その効果に限界が見え始めており、単独での解決が困難な状況にあります。



【課題】

- ・連携意識の不足：過去の経緯や競争意識により、自治体間の協力が進みにくい状況です。
- ・調整の負担：合意形成や役割分担に手間がかかり、事業の遅れの原因となっています。
- ・短期偏重：単年度の成果を重視し、中長期的な視点が欠けがちです。
- ・成果の不透明さ：効果の見える化が不十分で、継続的な取り組みに繋がりにくい現状です。
- ・行政主導の限界：行政中心では住民や民間の主体性を引き出しにくく、ボトムアップの仕組みが必要です。

成川まさゆきの取り組み

このような地域連携の現状と課題を深く認識し、黒部市議会議員として私が取り組んでいるのが、「広域連携による人口減少社会の克服」です。私は、単なる挨拶に留まらず、具体的な課題解決と未来創造を見据えた戦略的な連携を推進しています。

この取り組みは、単発で終わらせるのではなく、それぞれが有機的に連携し、相乗効果を生み出すことを目指しています。各連携から得られる成果を明確にし、情報発信を強化することで、「黒部宇奈月温泉駅で下車したら何があるのか」を明確に伝え、「名水と豊かな自然に抱かれ、先端技術と多様な人々が共生する、持続可能で魅力的な『スマート・グリーンライフ拠点』としての黒部」の未来を創造していきます。



1. 温泉駅連携による観光促進

黒部宇奈月・加賀・あわらの3つの温泉駅が連携し、周遊ルートや観光バスの開発を検討。外国人観光客の誘致と滞在型観光を促進します。

2. 新幹線停車本数の増加要望

糸魚川・上越と連携し、新幹線の利便性向上を目指します。アクセス改善により観光や移住促進にもつながります。

3. マラソン連携による関係人口創出

青梅マラソンと連携を強化。ノウハウの共有で大会の質を高め、継続的な人のつながりを地域の力に変えます。

4. イベントカレンダーの共有

近隣自治体と開催日程を調整し、集客の分散を防止。広域での情報発信により地域全体の魅力を高めています。



4月4日
青梅市長表敬訪問



5月15日
加賀市議会議長表敬訪問



6月18日
糸魚川市長表敬訪問

これからも現場の声を活かし、黒部の未来を見据えた広域連携を推進してまいります。

なりかわ 黒部を未来へつなく
成川まさゆき

黒部市議会議員
facebookで活動公開中!

